

第5回ヘンデル・フェスティバル・ジャパン

第5回ヘンデル・フェスティバル・ジャパン（監修・三澤寿喜）のテーマは、「英国王室とヘンデル」。2企画のうちの一つ、《水上の音楽》全曲と《戴冠式アンセム》を聴いた。キャノンズ・コンサート室内管弦楽団及び合唱団を、近年指揮者として



第5回ヘンデル・フェスティバル・ジャパン

注目を集めている、イル・ジャルデ
イーノ・アルモニコのコンマス、オ
ノフリが振った。《水上の音楽》は数
年前にロンドンで発見された楽譜に
よって裏付けられた初演の曲順（全
22曲）での演奏。オノフリの身振り
は大きく、弦楽も途中から乗ってき
た。引き締まったテンポと多彩かつ
独創的なアーティキュレーション、
柔らかな抑揚、フレーズの始まりの
ちよつとしたアゴーギクや軽やかな
ダンスなど、デュナーミクも含めて
すべてがよく考えられていて、遊び
心にも事欠かない。後半《ジョージ
2世と王妃の戴冠式のためのアンセ
ム》では、詩節によるメリハリの効
いた対比やイメーシ豊かに描かれた
言葉がすばらしい説得力をもたらす。
そしてまた、《主よ、王はあなたの御
力を讃え》の明快かつ力強い表現。
オーケストラも合唱も積極的である
うえによく纏まっていて、《祭司ザド
ク》では予想を越えた劇的な盛り上
がりを見せた。1月18日・浜離宮朝日
ホール

● 那須田務